

令和7年度　小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人	代表者	峯崎俊雄	法人・事業所の特徴	ご利用者はもとより、働く職員やボランティアの方々が「笑顔」で業務や活動ができる施設になるよう取り組んでおります。また、ご利用者の方々が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所　えがお	管理者	青木大樹		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	1人	人	人	3人	人	7人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	事業所の改善計画を具体的でわかりやすく項目を挙げ、職員間で共有し達成できるようにする。	自己評価での改善点について、話し合う機会を作る事が出来、良質なサービス提供を行う事が出来た。	勤務のシフトが様々である中での、全スタッフの情報共有を図る事は大変だと思うが、工夫をして取り組んでほしいとの意見を頂きました。	全職員が統一した情報の把握と具体的な対応案を検討し、サービス評価の目標を共有しサービスの質の向上に努める。
B．事業所のしつらえ・環境	日常的な清掃、整理整頓を継続的に取り組み、快適で引き続き居心地の良い居場所作りを心がける。	整理整頓・美化・衛生面を常に心がけ、快適で居心地の良い居場所作りは出来た。	事業所内は清掃がきちんとされていて、快適な空間になっているとの意見を頂きました。	事業所内の環境整備（換気・温湿度・明るさ等の管理、手洗い・消毒、掃除）に力を入れ、居心地のよい空間作りをする。
C．事業所と地域のかかわり	ご利用者と一緒に、外に出る機会を作る。	限られた外出しか出来ず、今後は外に出る機会を増やしていきたい。	町の行事・文化祭等に作品を展示してはとの意見を頂きました。	引き続き、利用者と一緒に外に出る機会作り、町や地域の行事等に参加する。（町民文化祭・福祉まつり等）
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	送迎、訪問時など職員から地域の方に関わり、情報を得て、共有をしていく。	最低限ではあるが、近所の住民や民生委員・児童委員に協力を頂き情報収集・共有は出来た。	利用者の方については、ある程度情報は入るが、他者についてはなかなか情報を知る機会がないのではないかと意見を頂きました。	利用者との日々のコミュニケーションを大事にして地域との繋がり、家族と地域との繋がりにも目を向け利用者自身が自分らしい生活を送れる様にする。
E．運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議で、地域の心配な方がいないか確認していき、必要であればその方に対して支援できることがないか検討していく。	地域との意見交換があまり出来なかった。今後は、積極的に意見交換をして行きたい。	運営推進会議で挙げた意見を取り入れ、改善に取り組んでいるとの意見を頂きました。	運営推進会議出席職員を固定せず、より多くの職員が出席することで、会議の目的や内容を共有し、事業所としての理解を深めていく。
F．事業所の防災・災害対策	運営推進会議と同時に災害等訓練を開催し、地域の方々に現状を知ってもらう。又、地域　防災訓練に出	運営推進会議と同時に災害等訓練が出来なかった為、今後は、訓練を実施して行きたい。	運営推進会議と同時に、事業所の災害等訓練を行う事で、改善計画の評価にもつながると思われるとの意	引き続き、運営推進会議と同時に災害等訓練を開催し、地域の方々に現状を知ってもらう。又、地域　防災訓練等に

	向き、連携や情報交換をしていく。		見を頂きました。	出向き、連携や情報交換をしていく。
--	------------------	--	----------	-------------------